

開発 教育

ニュースレター



No. 49

1994. 7

開発教育協議会

タイ子どもの村学園にて

野外に机といすを並べての授業風景。

子どもの村学園では、子どもは授業への出席を強要されることはない。その子ども達は、それぞれ思い思いの姿勢で授業に“参加”しているように見える。

山西優二（東京都）

国学院大学教授・楠原 彰 先生

アパルトヘイトからの目覚め

「日本は、なかなか市民運動が盛り上がらないところだって、反アパルトヘイト運動を日本で展開してつくづく感じたね。」こう、手厳しく言い放つのは、反アパルトヘイト運動の参加者であり、国学院大学で『教育からの自由のための教育学』を教えている楠原彰先生。南アフリカ産の品物の不買運動をしたり、南アフリカで企業活動をするのを禁じる法案をつくらせたりと、アパルトヘイトの終焉にかなり貢献した欧米の市民運動と比べて、日本では反アパルトヘイト運動がそれほど盛り上がらなかった。

先生が日本で反アパルトヘイトの市民運動を盛り上げようと、中学校の前でチラシを配った時、チラシを受け取る中学生はほとんどいなかった。先生が、「アパルトヘイトは知ってるだろ？」と中学生に語りかけると「うん、知ってるけど、こういうチラシはもらっちゃいけないって先生に言われてるんだ。」という答えが返って来たという。

「今の学生は、知識としては様々な社会問題を勉強して知っているけど、そうした知識の実態については知らないし、問題についての自分なりの意見を持つこともないんだよね。ましてや体を動かして、問題にかかわるなんてことは、本当にまれだね。でもこれは、学生の責任だけじゃないんだよね。詰め込み教育を行い、社会と学校を『隔離』（アパルトヘイト）している教育にも問題があるんじゃないかな。僕は、これを教育のアパルトヘイトと呼んでいるんだけどね。」

こんな話を聞くと、私自身の高校時代がよみがえってくる。テストのためにやった世界史の丸暗記。あの時の知識は、答案用紙に答えを書いたとたんに頭の中から消えてなくなっていった。言い訳をすればしたら、テストで問われる知識は、私の生活にほとんど関係ないと思っていたから。先生の言うように知識を自分のなかで開花させるには、自分が生きるこの日本社会が、長い歴史と世界情勢との網の目のような相互関係のなかで存在している、ということに気付くことが不可欠だと思う。そして、その『気付き』が開発教育につながっていくんじゃないな、、、。

「そう、市民運動を活性化させるには、開発教育がとても大切だと思うよ。でも、日本の学校教育では開発教育の実践はかなり難しいね。学校での教育は、本当の意味での『市民』、つまり社会をより良い方向に導くパワーを持つ人材を育てることより、学生にいかにも多くの知識を詰め込むかに重きを置いているからね。」

そして学生たちは、偏差値と呼ばれる知識量によって序列化されてしまっている。多くの学生に接していて、そのことで元気がなくなってしまっている学生たちがとても多い、と先生は感じている。

では、日本で教育を受けた先生自身はいったいどんな学生であったのだろうか？そう思い尋ねてみたところ、「僕も今の学生と同じように、世の中の矛盾や問題に気が付いても、それと向き合い、積極的にかかわっていくパワーがなかったな。」と意外な答えが返ってきた。そんな先生に大きな衝撃を与え、生き方を変えるきっかけとなったのが、一年間滞在したアフリカで出会った人々であるという。

「アフリカでは、日本では考えられない程、不便で貧しい生活をしている人々でもイキイキとしてるんだよね。一人一人がたくましく、あるがままの自分を受け入れて、生きている。そんなアフリカ人の姿をみて、僕は勇気づけられたんだな。」と、アフリカでの思い出を、先生は遠くを見つめながら語ってくれた。

日本のように高度に能率化され、整備された国ほど、ある程度限定された価値基準といったものがあって、それに従って生活していかないと、一般的な意味において脱落者としての捺印を押されてしまったりする。けれども、まだ近代文明と土着文化とが混沌と存在する第3世界においては、多様な価値基準が息づいているのかもしれない、、、。

先生はきっとアフリカで、日本における狭い価値基準による『隔離』（アパルトヘイト）を飛び越え、地球人として目覚められたのでしょうか。それは、同じ地球人としてアフリカや世界の人々と共存している自分を感じることであったのではないのでしょうか？こうした地球人としての他者への愛が、先生の反アパルトヘイト運動への原動力となっているように思えました。

文責 中島 由記

子どもの権利条約発効 二つの話題

子どもの権利に関する条約は国会での批准手続きを終え、国連の採択後五年めの5月22日によろやく発効した。国際条約などは外務省で訳したものが国会に提出されて承認されると、それが定訳になるが、この子ども権利条約は表題の児童か子どもかを始め、いくつかの箇所翻訳論争がおき、国会審議中に訳が訂正されたところもあるくらいである。それほど関係者の関心の高い条約といえるが、定訳のほかにもいくつかの翻訳が発表されていて、表現の違いがいろいろと気になるところもある。その条約をめぐる話題二つ。

文部省次官通達

文部省は5月20日付けで次官名で「児童の権利に関する条約」についてという通達を、都道府県の教育委員会や知事などに送付した。通達では、この条約は憲法や教育基本法、これまでに批准している人権に関する国際規約などと軌を一にしているから、教育関係についての法令等の改正を必要としないが、児童の人権に十分配慮した教育が行われなければならないことはきわめて重要であるとした上で、いくつかの留意事項を記している。たとえば、いじめや校内暴力に対する一層の真剣な取り組み、登校拒否や高校中途退学についての指導における個人理解・個性尊重の必要を指摘し、体罰禁止の徹底を求めるなどがそれである。また、子どもの意見表明権や表現の自由の権利については、学校は必要な合理的範囲内で指導指示ができること、校則は学校の責任と判断で決定されるべきものであること、意見表明権は理念の一般的規定であって必ず反映されるということまで求めているものではないこと、今後とも国旗・国家に関する指導を充実すること、条約についての教育指導にあたっては児童に限らず子どもという言葉も適宜使ってもよいこと、などが含まれている。

本音はどちらを向いている

関西セミナーハウスが今年も開発教育推進セミナーを開いているが、その第一回の集まりの自由懇談の席上、参加者たちが発効したばかりの子どもの権利条約を取り上げ、白熱

した議論を交わした、と6月1日付けの毎日新聞夕刊が報じた。それによると、権利条約ができたからといって生徒の言うことばかり聞いていたら授業にならない、校則などの見直しは学校運営上応じられない、などという学校教師の意見がでた反面、条約発効で学校現場に混乱がでることは予想されるが画一化した学校こそ改めるべきで「やらされている教育」からの脱却が急務、とか、子どもの権利条約で求められているのは大人側の意識変革、などという指摘もあったという。所長の平田哲さんは、偶然その場に合わせた新聞記者の存在を意識せずに話していた結果が記事になったと説明しているが、平田さん自身は記者の質問に答えて「意識のある教師ですら、権利条約に対して否定的な意見が多かったのには正直、驚いた。違いを認め合い、共に生きることの大切さを考えるのが開発教育だ。その観点からも、校則に縛られた学校こそ改善される必要があるのでは」と話した、と報じられている。

国際理解教育奨励賞論文募集

帝塚山学院大学国際理解研究所では、開発教育協議会などの後援のもとに、第20回の国際理解教育奨励賞論文を募集している。9月15日までに応募論文の概要を提出し、この一次選考に合格した者が1995年1月末までに本論文を提出し、最終選考を受ける仕組み。問い合わせは大阪狭山市今熊2-1823の同研究所まで。

シャプラニール 作文・小論文コンクール

シャプラニールが創立20周年を記念して始めた中学生の作文コンクール、高校生層の小論文コンクールは今年で三回目を迎え、9月に応募作品を受け付けることにしている。詳しいことの間い合わせや広報資料請求は、東京都新宿区西早稲田2-3-1早稲田奉仕園内の同東京事務所まで。

スウェーデンの中のモスLEM学校

ヨーロッパ諸国では発展途上国からの移住民子弟の教育が、時折、大きな社会問題になるが、ストックホルムでも、1992年度に公立学校におけるモスLEM子弟の取り扱い方が表面化し、ストックホルム教育委員会は特別委員会の勧告に基づいて、学校におけるモスLEM原理主義者の要求についてという覚書を発表した。その委員会は、スウェーデンに住むものはすべて、スウェーデンは多民族社会であり、他者の宗教と価値観に寛容でなければならないことを認め、モスLEMの児童が自らの宗教に従って生活できるようにするために学校とイスラム原理主義者との対話を大切にしなければならないとしている。そして特別の要求をしているのは限られた数のモスLEM子弟だけとした上で、具体的には次のような指針を示した。

食事：特定の児童集団に特別の給食献立を用意する学校が増えているが、給食に二つの献立を用意してもいいし、家庭で食事をせざるようにしてもよい。

祈禱の時間：モスLEM児童の多くは、業間休憩時間など、授業に妨げのない適当な時間に祈禱をしているので、児童が祈禱のために授業時間中に教室から離れるのは、特別の時にしか認められない。**宗教教育：**学校教育法では、親はその子どもを正規の宗教教育の時間に出席させないことができるとしている。この法律はモスLEM子弟にも適用されることは当然である。

スポーツ：ほとんどの学校がスポーツの時間の女子の服装を規定しているが、宗教上の理由でこれを忌避することは認められない。

音楽：一部のモスLEMがアングロサクソンの音楽を教わることに反対しているが、イスラムがアングロサクソンの音楽を禁止している条項はないので、イスラムの教えを理由で音楽の時間を忌避することは認められない。

英語：一部のモスLEMは英語の教科書がアメリカの生活を題材としていることに異議を申し立てているが、それは宗教上の理由ではなく政治的な理由なので、モスLEM子弟が英語の時間を忌避するのは認められない。(News letter/Education 1/94, Council of Europe から)

開発教育推進セミナー1994

関西セミナーハウスでは5月から12月まで6回にわたり、開発にかかわる世界各地の問題をとりあげる開発教育推進セミナーを開催する。いずれも週末を利用する1泊2日の日程。すでに5月と6月の二回は終わっているが、部分参加もできるので、京都市左京区一乗竹の内町23の同セミナーハウス (Tel:075-711-2115) に問い合わせのこと。

またこのセミナーの番外プログラムとして8月16日から11日間のバングラデシュ・スタディツアーが企画されている。関心があればあわせてお問い合わせを。

ユニセフ Progress of Nations 刊行

今年のユニセフの年刊 Progress of Nations 日本語版、国々の前進がユニセフ駐日代表部から刊行された。いくつかの日刊紙がその内容を伝えているが、ユニセフは人々が社会統計に関心を持ち、国民の生活の姿を伝える社会統計を明らかにする国が増えるようにしようと訴えた上で、栄養、保健、教育、家族計画などの側面での成果と国際的な格差を明らかにしている。英文版の希望は、はがきで東京都新宿区神宮前5丁目53-70国連大学ビルのユニセフ駐日代表部まで申し込むこと。



新刊図書紹介

「開発のための教育」

-ユニセフによる地球学習の手引き

指導者用手引き パイロットバージョン」
(財)日本ユニセフ協会

本書は、7歳から18歳までを対象として「開発のための教育」を実践する指導者のための手引きである。非常にストラクチャルに分かりやすく構成されているので、目的に応じて活動例を参考にすることができる。

第三世界理解を中心としてきたこれまでの開発教育から一歩進んで、ここでは、開発問題の底流にある幅広い地球規模の問題の関わり合いの理解に基づく態度形成を促すことを目的として、5つの基本概念（「相互依存」「イメージと認識」「社会正義」「対立と対立の解決」「変革と未来」）を提示している。

活動例は、学校でも青少年グループの活動としても利用することができるが、基本的に学校の1時限（45分間）で終了することを想定して作られている。活動例は上述した5つの概念に沿って分類されている。また、それぞれの活動例は対象年齢別に3つのレベルに分けられており、本書の利用者は、目的と対象によって適切な活動を選びやすいようになっている。全ての事例には、使用する教材、進行方法、バリエーション、フォローアップ、関連技能、他のカリキュラム領域との関連性といった項目が網羅されており、活動が単発のものとならず、他のカリキュラムと関連しあって、より有効なものとなるよう考慮されている。

指導者の手法の整理にも役立つと思われるので、是非、多くの人に読んでもらいたい1冊である。また、パイロットバージョンということなので、実践者の意見等により、さらに良いものになることが期待される。

高校生のための英語教材

「Timely Topics」

永井宏/山森崇裕 他

「World Scope」

平井久志/平良達夫 他

株式会社桐原書店 定価各480円

高校生のための英語の副教材である。両書とも、国際的な話題を10程度取り上げ、それについての英文の記述と、文章に関する問いで構成されている。NGO、PKO、民族紛争、銃規制、サッカーなど、題材は多岐に渡り、英語を学習しながら国際的な様々な事柄に触れることができる。また、語学力を問う設問の他に、「Discussion」「Let's think!」といった設問も用意されており、生徒がその事柄について考え、自分の意見を持つことを促している。例えば、NGOの活動を紹介した章では、「政府規模の援助活動とNGOの活動の役割の違いは何か説明しなさい」という設問がある。また、PKOへの自衛隊派遣について、賛成と反対に分かれてディベートを行うようなものや、ソマリアなどの飢餓に苦しむ人々のために自分が実際にできそうなことを考える、などといった課題も提示されている。

高校の学校現場で活用できる教材として非常に面白い。使用する教師によって、どのようにでも味付けできそうな教材である。

「たみちゃんと南の人びと Part 3」

21世紀をともに生きる地球の仲間 編

(財)神奈川県国際交流協会 企画

明石書店 定価1,545円

仲間とともに様々な国際的テーマを考える「たみちゃん」の物語も、今回で合冊本で3冊目になった。今回は、「子どもの権利条約」「外国人労働者」「エイズ」をテーマとした7～9話を収録している。

また、たみちゃんと一緒に考えてみるよう、子供たちを誘ってみてはどうだろうか。

以上/山田肖子

「機関誌『開発教育』論文20選」

開発教育協議会発行

この本は、開発教育協議会の機関誌である「開発教育」に掲載された論文から、代表的な20論文をまとめたものである。現在、「開発教育」は26号まで発行されているが、ここでは第1号から20号までの中から特に開発教育の目的、内容・領域、方法などに関する基本的な論文や座談会の報告を中心に選定、編纂している。

この20編の論文の分野は大きく、①開発教育の定義・内容・方法論、②学校教育及びNGOにおける開発教育の可能性、③海外協力・異文化理解と開発教育、④国内における国際問題と開発教育、⑤海外の開発教育の現状、⑥これからの開発教育などに分類できる。

編纂された論文は、このように開発教育に関する主要な分野を網羅しているため、開発教育に関する問題や課題の全体把握のためにも役立つものである。特に海外の開発教育については掲載が6論文と充実しており、これからの日本の開発教育を考える上で様々な示唆を与えてくれるだろう。

また、巻末には「開発教育」のバックナンバーの目次が掲載されており、この十数年間における日本の開発教育の進展

や中心となる課題の変遷をすることができる。

「アフリカ大好き！」APIC開発教育キットPart 4

国際協力推進協会発行

国際協力推進協会の開発教育キット(教材)としてこの3月にできたばかりの視聴覚教材である。「動くアジア」(Part 2)、「アジアのうねり」(Part 3)とアジアに関するキットが続いていたが、今回はアフリカを題材としている。

このキットが対象とするのは小学校高学年及び中学生であるが、国際協力などに関心をもつ大人向けとしても十分対応できるものである。キットはあるアフリカの農村の日常生活を伝えたビデオ「アフリカからこんにちは」(20分)、アフリカ写真セット、アフリカイラストマップ及び使い方を示したガイドブックからなっている。

ガイドブックには、アフリカの生活と自分たちの生活との比較ができるようなシートなどもつけられており、様々な利用方法が示されている。

このキットは国際協力推進協会をはじめ、開発教育協議会でも貸し出しているため、積極的に借りて利用をしてみてください。

以上/竹内一雅

第3回 財とよなか国際交流協会

どこにいても走り回っている人

栗野真造さんに聞きました

昨年10月、豊中市により財とよなか国際交流協会が設立されました。地上3階、地下1階建ての国際交流センターの拠点をつかって、開発教育、人権教育などの地球市民教育、在日外国人の支援などさまざまな活動をすすめています。事務局は事務局長、事業課長を含めて4人が民間から、総務は行政からの出向者2名で、計6人体制です。人権の平和を理念に、あくまでも国際交流の主役は住民であるという基本姿勢で運営されており、職員全員の「市民と行政をつなぐ新しいタイプの国際交流協会を市民と一緒に創りあげていきたい」という気概が伝わってきます。

設立以来、魅力的な行事が目白押しで、「私も豊中に住みたいっ」という声もしばしば。例えば、ジョーイ・アラヤのフィリピン・コンサート、UNHCRの難民展、わーど・かるチャー・食シリーズ、国際理解連続セミナー、地球市民教育実践セミナーなど、わくわくする内容ばかりです。

そこで栗野さんに、行事を企画するときのポイントやコツみたいなものがあたらぜひ真似をしたい!と思い、聞いてみました。

■事業のコツは次の3つ

(1)テーマに対する自分なりの思いの深まり・高まり

重要なのは、自分がその事業をしたいと感じているか、自分の心は静かに燃えているか、そしてそれが参加者のニーズと合っているか、参加者はよかったと思ってくれるか、ということですね。絶えず自分の内側の声と、一般参加者の声とに耳を傾けることが大切だと思います。

(2)日ごろの人・団体とのネットワークづくり・仲間づくり

さまざまなNGOの会議や集会に出て、おもしろい人、その道の専門家と知り合うことが大切ですね。あの人のネットワークが広がると、電話一本で、飲み会の雑談で、企画がひらめいたり具体化していったり、おもしろいものです。

(3)参加者にも自分にも、楽しさ・出会い・気づきの生まれる内容づくり

形式ばったお行儀のよい集会のすすめ方はしないで、みんながリラックスできるような雰囲気づくりや、交流・対話の生まれる場づくりを心がけています。会の冒頭でテーマにちなんだクイズをしたり、参加型学習方法を活用したり、会の終了後は茶話会式の交流会を呼びかけています。「一方通行の講演と、活気のない質疑応答」というパターンは芸がないので、新しい工夫や実験をしています。

ところで栗野さんは、NGO(アムネスティ・インターナショナル加支部)からの転職ということでも知られていますが、物心両面で変わったこと、変わらないことを聞いてみました。



東寺西止の栗野さん(今年3月の担い手会議)

学生時代から14年間、アムネスティや日本ユニセフ協会、国際子ども権利センターの市民活動に関わりました。仕事は10年間働いたアムネスティの日本支部から自治体系の国際交流協会へ転職し、一部NGO仲間の悪友たちから、裏切りものだ、寝返りだと非難されています(笑)。

転職しての変化は、働く場所が、今までと雲泥の差で広くきれいになったこと。以前の10数坪の事務所が100個以上は入る広さですからね。給料もよくなって、やっと貯金ができます(笑)。あと自治体の内側がいろいろ見えてきておもしろい。それに地域の町内会のや学校の一つひとつつながりもうまれました。地域の住民・市民団体から、あれやれ、これやれと言われてたり、怒られたり……etc.

転職しても変わらないことは、忙しさ。前以上の忙しさで、こら、えらいこっちゃん対策を検討中。雑然とした忙しさの中で、自分の精神性の深まりや、生きることの多様さとのバランスをどう保つか、その必要性をヒリヒリ感じています。仕事やNGO活動とは別に、山を歩き、本を読み、映画に沈潜し、飲み、歌い、家事労働に苦しみ、友と語らう時間をどう持ち続けるか、目下の悩みです。

市民・NGOと自治体の間に位置する中間組織の可能性や楽しさ、逆にその難しさや矛盾をしっかりと体験しながら、「おもしろい国際交流協会」をつくる実験を成功させたいと思っています。資料希望の方は、下記宛おハガキください。

財とよなか国際交流協会/実施事業一覧

1. 国際交流の機会提供および参加促進事業

コンサート関連事業(ex. ジョーイ・アラヤさん)、ワールド・かるチャー・食(ex. 夏にふさわしい韓国家庭料理)、国際交流ボランティア振興事業(登録制度と運用、他)、外国人企画ボード、など

2. 国際理解および国際化に関する啓発・研修事業

国際理解連続セミナー、スリランカ連続セミナー、JICA共催市民講座(10~12月)、在日韓国朝鮮人理解セミナー、地球市民教育実践者研修、他

3. 国際交流に関する情報の提供事業

・情報の収集・提供事業や、情報コーナーの運営(4

カ国版リフレット)など

4. 民間団体の国際交流に対する支援事業

・「国際ネットワークとよなか」のまつり、情報誌(『ひらく』)への協力など

5. 国際交流調査研究事業

・在日外国人生活ニーズ調査(4月開始)

6. 在日外国人に対する支援事業

・相談事業
・日本語よみかき教室(9月窓口開設)
・外国語(母国語)教室(5月末開始)

財とよなか国際交流協会

〒560 豊中市北桜塚3-1-28 ☎06(843)4343 FAX. 06(843)4375

開館は午前9時から午後10時まで 休館日は毎週月曜日です

以上/小松原美栄子

もっと知りたい……

開発教育協議会の巻

今年開発教育協議会は、発足してから12年目を迎えました。当初は団体会員が大半を占めていましたが、ここ数年は官民を問わず個人会員が多くなりました。今日は、会員の皆さんから寄せられる意見や提案をまじえて、開発教育をめぐる状況開発教育協議会のすすもうとしている方向について、事務局長の山西優二さんに聞いてみました。

まず、今年5月の総会で学生会員の年会費1,000円アップが承認されましたが、出席した学生会員から「値上げはやむを得ない。しかし開発教育の研究教育機関への働きかけが不十分。今後はもっと普及活動に力点を置いてほしい」との指摘がありました。その他にも、○開発教育は現場の教師が必要と考えている教育の一つであるが、教師の多くは「開発教育」という言葉すら知らない。文部省、教育委員会への働きかけをしてほしい。○学校教育と並行して社会教育としての開発教育にも積極的に取り組んでほしい。○協議会主催の開発教育理解講座、ワークショップなどをもっと充実させていくべきではないか。など、普及活動への提案が多く寄せられていますが、現在の状況と、今後の展望はいかがでしょうか。

特に教員を目指す大学生は、開発教育に触れることが必要です。しかし現状では協議会に関わる人が、大学関係者へ個別に働きかけを行なっているだけです。今後科目に組み入れられていくためには、普及活動のすそ野を広げ、開発教育の需要を高めていくことが一番の近道でしょう。

文部省、教育委員会へは、従来どおり理解や協力を求めて働きかけをしていきます。また個人会員が増えているという状況をふまえ、今後は定期的な入門講座も開催していく予定です。協議会は一人でも多くの方が開発教育に触れるよう、仕組みづくりをしていきます。

社会教育については、家庭、職場など「場」を特定しながら、早急に取り組んでいくべきです。今年度の全国研究集会の「場」ごとに検討をすすめる分科会では、実践に向けた、参加者の積極的な提案を期待しています。

1992年度にスタートした「開発教育地域セミナー」は、今年度どのように開催されますか。

今年度の開催地は、8月2～3日開催の豊田市からはじまって、松山市(他)、秋田市、小田原市、熊本市(予定)の全国5カ所です。このセミナーの目的は、開発教育への理解、地域の拠点づくりはもちろんですが、地域内ネットワーク、さらには地域間ネットワークのきっかけづくりです。将来的にこうしたネットワークを活用し、開発教育の実践の共有化をすすめたいと考えています。協議会はネットワーカーとしての役割を担い、情報センターは団体や教材の情報の収集をすすめ、それ

事務局長の山西さんの本業は大学教員。毎日、開発教育協議会事務局と大学とを行ったり来たりする超多忙スケジュール。もうすぐ夏休みなので、家族(奥さんと8歳・4歳の男の子2人)とのキャンプが楽しみとのこと。



をいかに提供していくかが、今後の課題となります。

開発教育の目標は時代とともに変化してきました。ここ数年定義の再考が議題として取り上げられることも多くなりましたし、「現在定義とされている文章も、コンセンサスが得られているわけではない」という指摘も寄せられています。「開発教育研究会」の発足も含め、開発教育をめぐる現状について聞かせてください。

昨年度の全国研究集会で定義再考をしましたが「開発」そのものの議論がなかったために限界がありました。今年度は「開発教育研究会」が中心となって、引き続き「開発」の議論をしながらすすめていきます。秋には再度議論の場を設け、「定義」あるいは「開発教育のガイドライン」というようなかたちにまとめる予定です。研究や実践をうまくすすめていくためにも、理論的ガイドラインの構築が急がれていますから、今年度中に『開発教育ハンドブック1995』にまとめ、発行する予定です。

情報センターの「活用術」はありますか。

現在『教材カタログ(仮称)』発行に向けて、教材の収集がすすんでいます。また開発教育関連の卒論、修論、実践事例報告などの資料が閲覧できます。これらの資料は多くが皆さんからの提供によるものです。これからも資料の提供をお願いします。

遠方の方は、まず昨年度発行の資料目録をご覧ください。電話で問い合わせてください。問い合わせに応じて関係団体の紹介、情報の提供等を行っています。論文作成のための文献研究にも積極的に活用してください。夏休み期間も通常どおり開館しています。

◆今、協議会は動いています。この1～2年を楽しみにしてください。(小松原美栄子)

今年も！ みんなで行こう、夏の全国研究集会

8月は全研の季節！

今年も「開発教育全国研究集会」が開かれます。昨年までの「時間が足りない」という参加者の声に応え、今年初めて3日間のプログラムが組まれました。盛り沢山のパネル・ディスカッションや分科会、おなじみの研究・実践事例発表に加え、新しい試みとして「自主ラウンド・テーブル」も。参加のお申込み、宿の確保はお早目に！

総会で決まったことのお知らせ

- 準会員を学生会員という名称に改めました。
- 学生会員の年会費が3,000円から4,000円になりました。
- 年6,000円の定期購読者制度ができました。
- 賛助金制度ができました。団体は一口50,000円から、個人は金額を問わず、会費以外に賛助金を納められることになりました。



Membership

新入会員

- 藤岡隆幸(岡山) 坂本伊津美(東京) 金子哲也(東京) 岡崎 裕(奈良) 二宮英喜(兵庫) 篠由美子(神奈川)
- 石平晃子(東京) 長谷川祥子(栃木) 稲川英嗣(宮城) 成瀬隼人(東京) 荒川共生(京都) 井上 聡(大分)
- 福井明美(滋賀) 尚網助学園高等学校(宮城) 今橋克寿(岩手) 鶴京都ユースホステル協会(京都) 木村真冬(東京)
- 寺尾 純(富山) 中須賀裕幸(広島) 大橋正明(千葉) 坂野紀子(千葉) 石田絵美子(埼玉) 野本啓介(神奈川)
- 大倉みゆき(神奈川) 川中 信(東京) 吉田真理子(東京) 中村清彦(静岡) 高橋松雄(岩手) 成田弘成(愛知)

継続会員

- 宇野公容(東京) 房野 桂(神奈川) 齊藤 博(熊本) 木村 瞳(愛媛) 飯尾光子(兵庫) 日比野真土(東京)
- 村上 朗(千葉) 西岡尚也(京都) 松井やより(東京) 中里亜夫(福岡) 中島秀行(埼玉) 戸澤由佳奈(神奈川)
- 渋谷 恵(茨城) 小林和恵(東京) 桑原直子(東京) 金香百合(大阪) 大山博文(神奈川) 木村利英子(神奈川)
- 風巻 浩(神奈川) 松尾通成(長崎) 池尾靖志(京都) 北九州YMCA(福岡) 荒木孝典(兵庫) 雨森孝悦(奈良)
- 銚子青年海外協力協会(東京) 小林 栄(東京) 松下俱子(東京) 里見 実(千葉) 今林弓子(千葉)
- 川上千春(神奈川) 阿部 治(埼玉) 馬越 徹(愛知) 北村真佐子(神奈川) 若松悠紀子(東京) 山内涼子(神奈川)
- 中村高明(神奈川) 兼田早智子(東京) 和賀井 稔(神奈川) 幡鎌芳明(神奈川) 長岡素巳(島根)
- 韓国国際開発センター(東京) 大橋勇一(東京) 木村ゆき子(茨城) 古賀正則(東京) 佐々木美恵子(神奈川)
- 吉原喜代(千葉) 大迫勝博(東京) 秋田貴美子(愛知) 谷沢一江(東京) 松本一子(愛知) 白鳥清志(千葉)
- ピセンテ・ボネット(東京) 広瀬和義(埼玉) 船越美知代(栃木) 鈴木聖二(埼玉) 長坂二郎(埼玉)
- 中井 聡(東京) 杉浦豊子(東京) 木原三彦(埼玉) 豊住マルシア(神奈川) 青野博由(埼玉)
- 韓国日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス(京都) アンセルモ・マタイス(東京) 甲斐田万智子(インド)
- 曹洞宗国際ボランティア会(東京) 吉住知文(埼玉) 古谷田紀夫(神奈川) 堀本隆保(東京) 富田主計(愛知)
- 山西優二(東京) 山崎正気(神奈川) 新倉久乃(神奈川) 韓国国際協力推進協会(東京) 富里るみ子(沖縄)
- 金田卓也(茨城) 熊本YMCA(熊本) 新田ゆかり(埼玉) 竹内一雅(東京) 瀬川智子(東京)
- 銚子全国子ども会連合会(東京) 六角陽子(兵庫) 韓国日本ユニセフ協会(東京) 大山恭子(千葉) 江釣子 真一(東京)

賛助金寄付者

- 兼田早智子(東京) 中井 聡(東京) 木下理仁(神奈川)

以上、いずれも94年4月～6月受付分、敬称略、受付順

◎皆様の会費有効期限は、封筒の宛名の右下の数字で表わしています。
◎住所変更、訂正などがありましたら、事務局までご連絡ください。

地球市民教育実践セミナー

カナダの地球市民教育に学ぶ
～多文化共生のために～

人権・女性・青年海外協力隊会の相互関係・エイズ・持続的環境などをテーマにしたワークショップを、学校教育にどうつなげていくか、そのためのカリキュラム開発や計画作りについての経験をお持ちの講師から、カナダの実践について学ぶ。

講師 サンディ・オクケンデンさん
とき 8月24日(水) 10:00～17:00
ところ とよなか国際交流センター
参加費 1000円
定員 50名
申込み ☎06-843-4343
(とよなか国際交流協会)

※宇都宮(8月22日)、仙台(8月26日)
盛岡(8月27日)、所沢(8月29日)
でも同様のプログラムが予定されています。詳しくは開発教育協議会事務局へお問い合わせください。

小田原グローバル・フェア
地球こだわり村まつり

「アジアの文化の流れ」をテーマとした中国・韓国・日本の伝統芸能のジャム・セッション、アフリカの太鼓「ジンベ」の演奏と体験コーナー、インドの舞踊とシターの演奏等々、盛りだくさんのステージと世界各国のスポーツ、いろいろな料理が楽しめるほか、国際協力の現場で活躍するNGOの紹介ブースもある一大イベント。

とき 8月6日(土)・7日(日)
ところ 小田原市・小田原城址公園内
主催 小田原青年会議所
後援 開発教育協議会 他
問合せ ☎0460-4-6611
(グローバル・フェア実行委員会)

夏のワークショップ
「体験して学びあう人権教育」

ゲームやロール・プレイ、グループ・ワークなどの手法を体験しながら人権教育について考えます。

とき 8月27日(土)～28日(日)
ところ 名古屋働く人の家
名古屋市熱田区伝馬 2-28-14
参加費 3000円
定員 30名
問合せ ☎052-774-7903
(国際理解教育あいち 高橋 健)

地域の国際交流・理解 豊田セミナー

「国際交流・理解の新しい視点
～開発教育の役割～」

開発教育協議会などによる、開発教育の活動の紹介、事例発表、テーマ別分科会など。

とき 9月2日(金)・3日(土)
両日とも 10:00～18:30
ところ 豊田市国際交流協会
主催 豊田市国際交流協会
岐阜県国際交流協会
岐阜国際協力推進協会
開発教育協議会
定員 50名 1日のみの参加も可
問合せ ☎0656-33-5931
(豊田市国際交流協会)

影絵劇「サケのくる河」

国際協力や環境問題について、子ども達と一緒に考えようというグループ「ばらばら」の公演。

産卵に帰ってきたサケの見たものは、ダム建設で荒れ果てた故郷の川だった……。

とき 9月18日(土) 14:00～
ところ フォーラム横浜
(ランドマーク・タワー13階)
入場料 無料
問合せ ☎045-782-0819
(グループばらばら 西本 恵)

PARC自由学校
「創造するアジア」

9月から来年1月にかけての連続講座。全12回。料理講習もあり(3回)。原則として土曜日の午後に行なわれる。

テーマは「アジアの音楽と出会うよろこび」「ジャワの大衆演劇とガムラン音楽」「タイ料理を食べながらタイを語る」「インドの文学散歩」「ポピュラー音楽から見るアジア」「フィリピン民衆の歌と料理」等々。

とき 9月3日～1月21日
ところ PARC自由学校
千代田区神田神保町 1-30
受講料 20000円
自由学校に初めて参加する場合、入会金として別に15000円
1回ごとの受講は、2000円
問合せ ☎03-5281-0399

あなたも会員として参加してみませんか!

開発教育協議会

「開発教育協議会」は、開発教育の推進に関心を持つ団体、個人であれば、どなたでも入会することができます。

会員の方には、

- ・研究誌『開発教育』(年3回)の送付
- ・ニュースレター(年6回)の送付
- ・全国研究集会、ワークショップ等の催しの案内
- ・国内外諸団体からの情報や資料の提供
- ・出版物、催しもの参加費等の会員割引

などのサービスがあります。

まずは、電話かハガキでお問い合わせください。

入会申込み方法

会員の種類は3つです。いずれかを選び、所定の入会申込み用紙(郵便振替票)に必要事項をご記入の上、会費をお支払いください。

- ① 団体会員 年会費 一口 20,000円
- ② 個人会員 年会費 一口 6,000円
- ③ 学生会員 年会費 一口 4,000円

■開発教育の普及活動を財政的に支援していただく「賛助金制度」もあります。

賛助金(団体) 一口 50,000円
〃(個人) 金額は特定しません

■図書館、研究機関などによる、機関誌、ニュースレターの定期講読のみのお申込みも受け付けています。

定期講読料 年間 6,000円

☆開発教育協議会では、各種活動の企画、運営に携わる運営委員(ボランティア)を募集しています。詳しくは、事務局までお問い合わせください。

◎私たちと一緒にこのニュースレターをつくっていませんか。いつでも大歓迎です。事務局へお電話ください。

◇表紙の写真の多くを募集しています。みなさんが撮った素敵な写真をお待ちしています。

開発教育
ニュースレター

隔月刊

1994年7月15日発行
第49号

発行: 開発教育協議会
〒169 東京都新宿区西早稲田
2-3-18-61
TEL: 03(3207)8085
(10:00～17:00)
FAX: 03(3207)0226

お願い: ファックスには必ず「開発教育協議会」と宛名を明記してください。

編集: ニュースレター編集チーム

編集室から・・・
■開発教育協議会の初代代表理事で、元・東和大学国際教育研究所教授の室 靖先生が亡くなられました。七月七日、八十一歳でした。
■日本の開発教育の歴史を語るとき、室先生のなさったお仕事を忘れることはできません。
■先生の論文や講演の記録は、私たち開発教育にかかわる若い世代に、目指すべき目標を指し示してくださいましたように思います。
■あとを継ぐ者が、これからの開発教育をどのように進めていけばよいのか、室先生の残されたものをもう一度読み返しながら、考えてみたいと思います。
(K)

※ 読者の皆さんからの情報をお待ちしています。締切りは偶数月の15日。協議会事務局(ニュースレター係)宛にお送りください。